



**More than a Vision**

# 株主の皆さまへ

## ごあいさつ

平素は、皆さまより格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。

ここに、当社の業務内容及び活動状況をとりまとめましたので、当社に対するご理解を一層深めていただければ幸いに存じます。

私どもは、経営環境に大きく左右されず、持続的な成長を図り、株主をはじめとするステークホルダーに報いるため、「地球会社戦略」を推進しています。このような経営環境の中で、「地球会社」という理念のもとに、37年以上にわたって世界中に築いてきた子会社・関連会社の一つひとつが、その力を発揮する時がやってきたと思います。

海外拠点の直販体制への移行、人材の育成、サポート・サービス事業のなお一層の充実を図り、持続的に成長可能な「精密機械工具の総合メーカー」を目指します。

今後とも、皆さまの変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 大沢輝秀

A handwritten signature in black ink, which appears to read '大沢輝秀' (Hideo Ohsawa). The signature is fluid and cursive.

代表取締役社長

## 営業の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、好調な輸出と旺盛な民間設備投資で、回復基調が続きました。海外におきましては、原油価格の上昇などによる景気の不透明感がありましたが、中国経済の拡大、米国経済の回復で総じて拡大傾向にありました。

当工具業界の需要は、自動車および設備投資関連の好調な受注により、引き続き高水準に推移しました。当社グループにおいても切削工具、転造工具などの主要な全製品に亘り好調な受注がありました。

海外展開

技術力・製品力

人材育成

# OSG's Markets



## 金型産業 20%

世の中に多く出回っている量産品は、金型を使って製作されています。その金型を加工するのにOSGのエンドミルが必要です。今期は、WXスーパーコートエンドミルやフェニックスエンドミルの新製品を投入し、更なる顧客サービスを展開します。



## 自動車・航空機産業 60%

自動車関連産業でのシェア拡大については、AW(オートワールド)室を中心に日本と海外の主要な自動車生産地において現地グループ会社との連携を生かした活動を行っています。これは自動車部品加工向けのタップと超硬ドリルの売上増加として着実な成果を得ています。



## IT・精密機器 7%

小型ハードディスク用の精密小ねじなどでもOSGは高いシェアを保持しつつあります。精密小ねじはもちろん、極小径タップやねじゲージも合わせて供給できるのはOSGだけです。市場ではデジタル家電の新製品開発が今後も続くと予想され、さらに売上の拡大が見込まれています。

売上高及び営業利益の増加は、日本、米州、欧州、アジアの全ての地域セグメントに亘っています。これは、工具需要の世界的な好調を反映したものであるとともに、当社が構築してきた海外のグループ会社が自国の市場の拡大を上回る成長を遂げている結果であると認識しています。中長期的な経営目標として海外売上高比率50%の達成、そのための施策として海外拠点の一層の拡充と自動車関連産業でのシェア拡大を目標に掲げています。

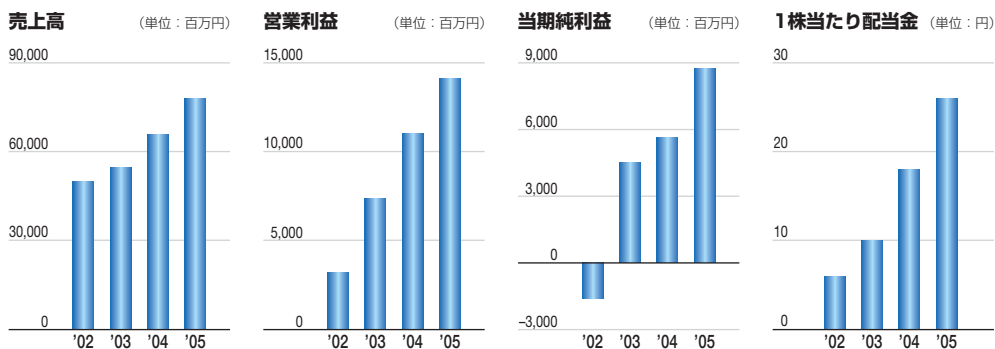
自動車関連産業でのシェア拡大については、AW(オートワールド)室を中心に日本と海外の主要な自動車生産地において現地グループ会社との連携を生かした活動を行っています。これは自動車部品加工向けのタップと超硬ドリルの売上増加として着実な成果を得ています。特に超硬ドリルは自動車産業において、高性能超硬ドリルにおける先駆者としての評価を獲得し、売上高が伸びています。

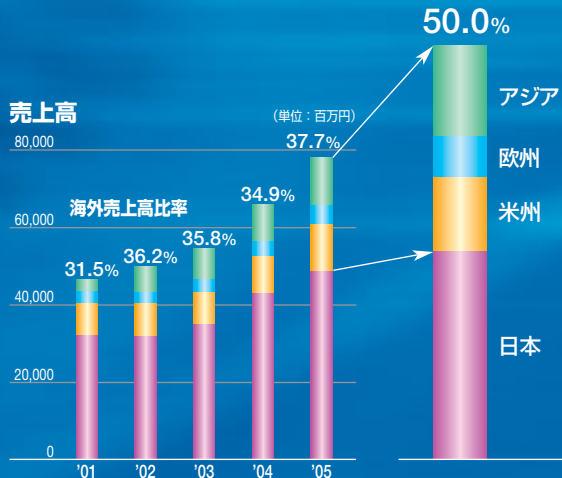
原材料価格の値上げにより製造コストに占める原材料費の比率が上昇していますが、売上高の増加による効果が原材料コストの上昇分を吸収して利益は増加しました。全体としては原材料コスト上昇分の販売価格への転嫁には至っていません。

以上のような結果、売上高は781億3千万円(前期比18.4%増)、経常利益138億8千7百万円(前期比31.9%増)、当期純利益87億5千8百万円(前期比55.1%増)となりました。

継続する高水準の受注によりタップ、ドリルの切削工具をはじめ主要な製品の需給状況が逼迫しています。市場の需要に対応するため生産能力の増強を最優先課題とし、設備投資、休日稼働、海外子会社との生産分担の対策を継続し、少しでも早く需給ギャップを改善するよう努力してまいります。

何卒、株主の皆様におかれましては変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

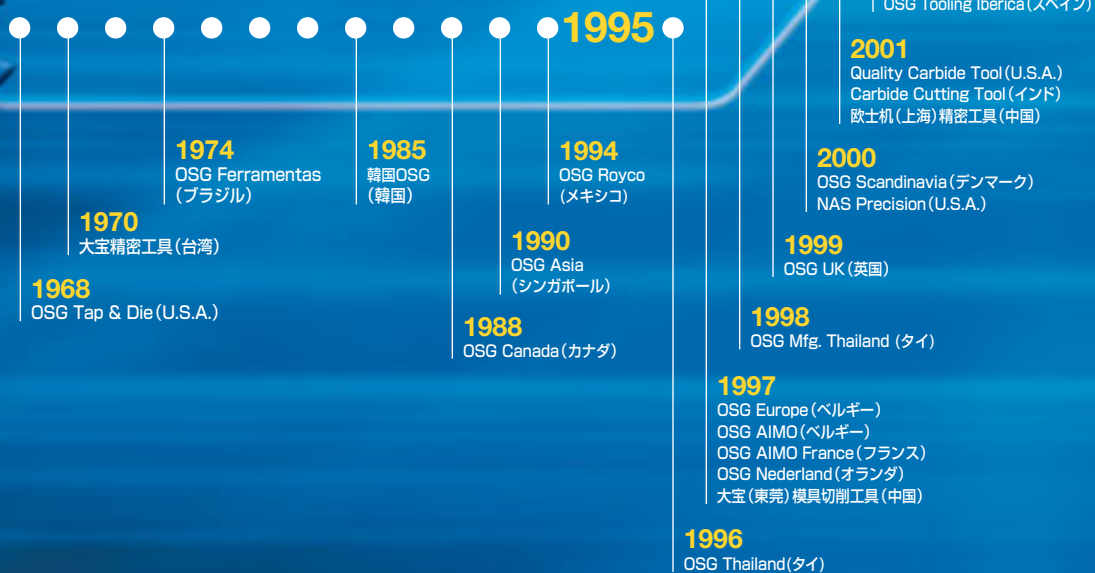




目標は海外売上高比率**50%**

## OSGの海外展開

OSGが初めて海外に進出したのは37年前。  
37年の間に人材が育ち、近年、海外事業が大きく伸びています。





- 販売拠点
- 製造・販売拠点

## The Americas

アメリカ、カナダでは、米系の自動車産業の低迷が続いていますが、当社グループの主要ユーザーである日系自動車メーカーと関連する部品産業が好調を維持、回復基調にある航空機産業などの需要が増加しました。

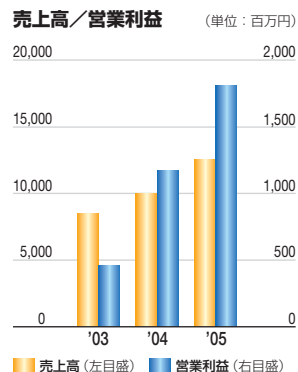
アメリカ・ジョージア、メキシコ、ブラジルの3箇所にハイス工具の生産工場を有していましたが、工具の超硬合金化の流れを受け

てハイス工具の需要が減退していたことから、2002年にジョージア工場を閉鎖し、日本、メキシコ、ブラジルからハイス工具の供給を行う体制に変更しました。それによりメキシコ、ブラジルの製造子会社においても米国向けに好調を維持できたことと、自国市場での需要の増加もあって、米州地区の増収増益に貢献しました。

一方、需要が拡大している超硬工具については、超硬工具の標準品を生産するQuality Carbide Tool, Inc.(QCT)と、2003年に設立した超硬工具の特殊品を製造するCutting Tool Innovations, Inc.(CTI)を活用し、今後さらに売上を伸ばす計画です。

圧造工具メーカーであるSterling Die, Inc.を2004年に買収し、現地の自動車関連、ねじメーカーへの対応力を向上させた結果、圧造製品の売上も大幅に増加しました。

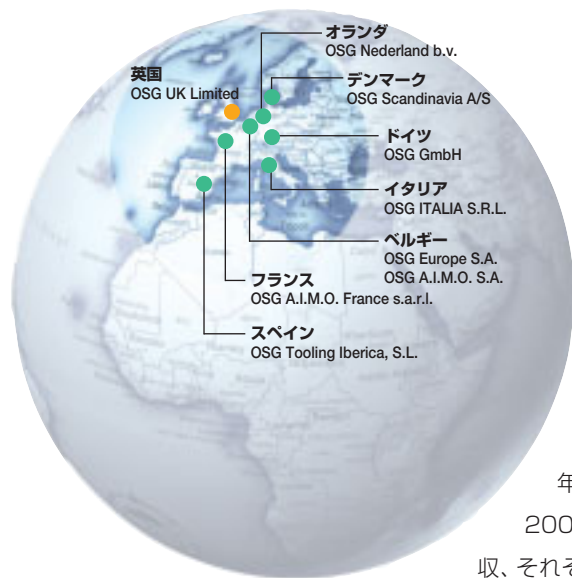
当期、米州での売上高は125億円(前期比25%増)でした。また、固定費の削減および高付加価値製品への製品シフトが収益構造改善に寄与したことから、営業利益は18億円(前期比54%増)となりました。



OSG Tap and Die, Inc.

# Europe

## 欧州



- 販売拠点
- 製造・販売拠点

**オランダ**  
 OSG Nederland b.v.  
**デンマーク**  
 OSG Scandinavia A/S  
**ドイツ**  
 OSG GmbH  
**イタリア**  
 OSG ITALIA S.R.L.  
**ベルギー**  
 OSG Europe S.A.  
 OSG A.I.M.O. S.A.  
**フランス**  
 OSG A.I.M.O. France s.a.r.l.  
**スペイン**  
 OSG Tooling Iberica, S.L.

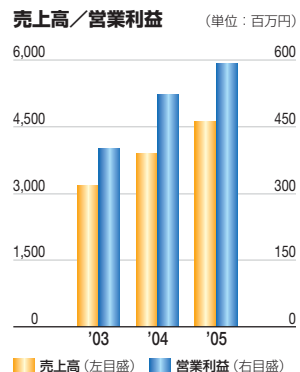
欧州では、同地域における営業拠点の統括会社OSG Europe S.A.を中心に、EU地域に密着した活動を展開しています。

当社は、1997年にベルギー、フランス、オランダで販売を手がけていたAIMO社を、さらに2000年にはデンマークの販売代理店を、2002年にはスペインの販売代理店を買収、それぞれ子会社化する一方で、1999年

にイギリスに自動車部品用切削工具の生産子会社を設立、欧州でのシェア拡大を図ってきました。近年では2003年1月にドイツに販売会社を設立し、また2003年12月にはイタリアの販売代理店VUMAT社を買収、販売子会社OSG ITALIA S.R.L.を設立しました。欧州内8カ国に拠点進出し、日系工具メーカー最大のネットワークを実現しました。

当社はこのネットワークを最大限に活用し、自動車産業、航空機関連市場、そして金型業界などに積極的な営業活動を展開しています。近い将来東欧への営業基盤強化にも取り組んでいく所存です。主要顧客である自動車産業ユーザーへは最新の工具技術を紹介する提案営業を行っており、それにより自動車産業向けの特種仕様の切削工具の拡販につながっています。イギリス、フランスではタップが、ドイツでは超硬ドリルが売上増加をけん引しています。

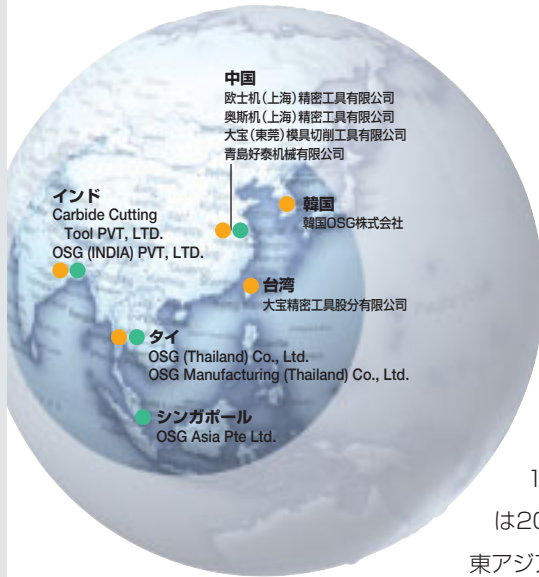
当期の欧州における売上高は46億円(前期比18%増)、営業利益は5億円(前期比13%増)となりました。



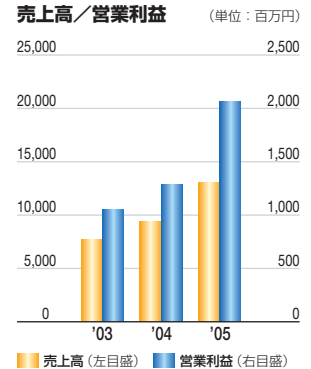
OSG Europe S.A.

# Asia

## アジア



アジア地域では、市場は継続して高い伸び率を維持しています。当社グループは当地域における拠点の拡充のための投資を積極的に行うことにより、市場の伸び率を大幅に超える成長を達成しています。当期のアジアでの売上高は130億円(前期比38%増)、営業利益は20億円(前期比60%増)となりました。



東アジア地域では自動車の生産が拡大してお

り、韓国、中国での自動車産業向けの売上が伸びています。中国では製造業全般に工具の需要が拡大しています。従来、中国には多数の工具メーカーが存在し、彼らが比較的高いシェアを占めていましたが、現在、自動車向けなど高度な加工精度を要求される部品の生産が拡大しており、当社が得意とする高品質・高性能工具の需要が増大しています。2004年6月に竣工しました、製造販売子会社「奥欺机(上海)精密工具有限公司」(上海市の松江工業区)は、単なる低コストではなく、最新鋭の設備を有し日本の工場の生産能力を補完する機能を果たすという目的を達成しています。

「世界の工場」になった中国が今後、生産技術および製品技術の高度化を志向する流れは加速すると予想され、当社においても、中国を中心としたアジア市場での売上拡大が今後の当社の業績のけん引役となると期待しています。

タイ、シンガポール、ベトナムなどの東南アジア地域では、IT・デジタル関連やオートバイ、自動車関連などの産業が好調に推移しました。台湾においても、ねじ加工産業の活況に支えられた旺盛な工具需要に対応すべく生産設備の増強を図りました。



欧士机(上海)精密工具有限公司

# 日本

# Japan

## 【国内】

OSG 本社  
大宝産業株式会社  
株式会社オーモリ  
株式会社モリヤマ  
日本ハードメタル株式会社  
株式会社青山製作所  
大高精工株式会社  
株式会社エスディ製作所  
ORS株式会社  
三和精機株式会社  
オーエスジーコーティングサービス株式会社  
株式会社オータク  
株式会社日清機工  
株式会社隆矢技研  
オーエスジーシステムプロダクツ株式会社  
株式会社ノダ精工  
株式会社金型コンサル

OSG 本社

オーエスジーは、日本国内では、全国32箇所に営業拠点を持つほか、在庫センター3箇所、代行店59社、特約代理店434社、販売代理店2,128社の合計2,624社の販売網を有しており、このような地域社会に密着した強力な販売流通組織は、業界屈指であるとともに、長年築き上げた当社の最大の財産となっています。

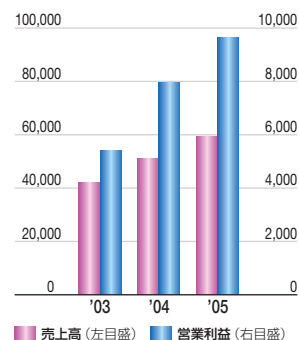
国内の製品別販売シェアはタップが約49%、ハイスエンドミル48%、ハイスドリル16%、超硬エンドミル29%と、いずれも市場で大きなシェアを占めています。さらに、小型ハードディスク用の精密子ネジでもオーエスジーは高いシェアを保持しつつあり、より市場を開拓するべくオーエスジーシステムプロダクツ(株)として分社化しました。市場ではデジタル家電の新製品開発が今後も続く予想され、さらに売上の拡大が見込まれています。

製品開発力の強化のために設計部門の統合を行い、デザインセンターを発足しました。また、アルミ加工用のダイヤモンド工具の生産を得意とする(株)ノダ精工と、金型加工技術を持つ(株)金型コンサルの買収により自動車及び金型産業向けの製品の拡充と開発力の強化を行いました。

当期の国内売上高は593億円(前期比16%増)、営業利益は96億円(同21%増)となりました。主要ユーザーである自動車産業及び設備投資関連よりの高水準の需要が継続しており、主力のタップ、超硬ドリルをはじめとする切削工具、転造工具など主要製品について、受注が生産を上回る逼迫した需給状況が継続しました。

## 売上高/営業利益

(単位：百万円)



オーエスジーデザインセンター

# トピックス

## デザインセンター竣工

オーエスジーアカデミーにあるデザインセンターオフィスが、第18回「日経ニューオフィス推進賞」を受賞しました。快適で機能的なオフィスを対象に106件の総数から選ばれました。また、建物だけでなく、各製造部にありました設計部門を統合し、新たな組織としてデザインセンターを発足させました。設計・開発のスピードアップを追求するとともに、自動車を中心とする大手ユーザーへアプローチするエンジニアを育成するためです。工具メーカーとしての更なる優位性を追求します。



製造部においては、豊橋工場と新城工場の新棟増築など、旺盛な受注に対応すべく設備投資を行っています。さらに、東部地区を中心にサービスを提供しています。在庫センター(株)オーモリが、横浜から東京都大田区昭和島へ移転いたしました。より良い物流サービスの提供をするため、物流拠点の集積地へ移りました。

## OSGグループ拡大

自動車産業向けの製品の拡充と開発力の強化を行うため、アルミ加工用のダイヤモンド工具の生産を得意とする(株)ノダ精工と、金型加工技術を持つ(株)金型コンサルの買収を行いました。米州では、関連会社でありました、NAS Precision, Inc.を完全子会社化し、航空機、自動車産業へのサービス強化を進めます。

オーエスジーのシステム開発部をオーエスジーシステムプロダクツ(株)として分社化しました。小型ハードディスク用の精密小ねじなどでもオーエスジーは高いシェアを保持しつつあり、更に市場を開拓するべく分社化し、サービス体制の強化をはかります。市場では今後もデジタル家電の新製品開発が続くと予想され、さらに売上の拡大が見込まれています。

## EMO&世界各地で展示会出展

世界最大規模の国際工作機械見本市「EMO Hannover 2005」が2005年9月にドイツ(ハノーバー)にて開催されました。オーエスジーブース内は連日來客で賑わいをみせ、高能率加工、コスト削減に役立つ新技術の数々をご紹介し、来場者の興味を惹いていました。また、近年力を入れているモータースポーツへの取り組みをアピールするために、鈴鹿8耐に参戦した実際のマシンを展示しました。

その他、台北国際工作機械展(台湾・台北)、中国国際工作機械展(中国・北京)、インターモールドJAPAN(日本・東京)、インターモールドKOREA(韓国・ソウル)、メタルASIA(シンガポール)、上海国際机床及模具展覧会(中国・上海)、メカトロテックジャパン(日本・名古屋)、METALEX(タイ・バンコク)、FEIMAFE(ブラジル・サンパウロ)など世界中の展示会等に出展し、国内外でのオーエスジーブランドの認知向上に効果をあげています。



## 市場を開拓する新製品群

### ■ CBNエンドミルシリーズ

被削材の高硬化化への対応や長寿命・高精度加工を実現した魅力たっぷりのCBNエンドミルシリーズに新たにスーパーボールが追加されました。次世代新シリーズの登場です。



### ■ フェニックスエンドミルシリーズ

今までにない高能率な切込みと送りを実現した新シリーズです。新開発「3-D Blend Surface™」の採用により今まで困難とされていた加工を可能にします。お客様の「もっと!」を実現させる「斬る」シリーズです。



### ■ WXスーパーコートエンドミルシリーズ

新開発の超耐熱・超硬質のWXスーパーコートを被膜し、高速ドライ加工、高硬度材の高速長寿命加工、高品質・高精度加工を実現し、「誰にも負けない!」エンドミルとして好評発売中です。



### ■ OSG-MARQUART

オーエスジーはシュリンク(焼きばめ)方式を、いち早くご提案してきました。高い振れ精度、高い把握力、高い接近性にすぐれるシュリンクをスピーディに実現する電磁誘導加熱方式によるシュリンク装置を発売いたしました。



# 決算の概況

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	2005年11月30日現在	2004年11月30日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>45,294</b>	<b>37,455</b>
現金及び預金	6,219	6,269
受取手形及び買掛金	16,136	13,772
有価証券	0	1
たな卸資産	19,523	15,069
繰延税金資産	1,554	1,318
その他	2,065	1,200
貸倒引当金	△206	△176
<b>固定資産</b>	<b>48,303</b>	<b>43,694</b>
有形固定資産	40,045	36,400
建物及び構築物	12,047	10,575
機械装置及び運搬具	15,086	13,718
土地	9,787	9,614
その他	3,123	2,492
無形固定資産	1,741	1,309
連結調整勘定	959	752
その他	781	556
投資その他の資産	6,517	5,984
投資有価証券	3,771	3,458
繰延税金資産	1,369	1,197
その他	1,591	1,601
貸倒引当金	△216	△272
<b>資産合計</b>	<b>93,598</b>	<b>81,150</b>

## Point 1

### 資産の部

今期末の流動比率は212%、当座比率は105%となりました。流動比率、当座比率とも会社の安全性を見るための代表的な指標ですが、流動比率200%以上、当座比率100%以上が理想といわれています。当社の貸借対照表は理想に大変近づいたと言えます。

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	2005年11月30日現在	2004年11月30日現在
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>21,351</b>	<b>18,021</b>
支払手形及び買掛金	5,269	4,749
短期借入金	5,697	3,266
1年以内償還予定の社債	—	627
1年以内返済予定の長期借入金	571	573
未払法人税等	2,983	3,006
未払費用	5,139	4,578
その他	1,690	1,220
<b>固定負債</b>	<b>11,862</b>	<b>18,009</b>
社債	50	6,160
長期借入金	7,852	7,675
退職給付引当金	3,055	2,987
役員退職慰労引当金	68	306
繰延税金負債	349	404
その他	487	474
<b>負債合計</b>	<b>33,213</b>	<b>36,030</b>
<b>少数株主持分</b>		
<b>少数株主持分</b>	<b>5,736</b>	<b>4,654</b>
<b>資本の部</b>		
資本金	10,404	10,404
資本剰余金	14,380	12,333
利益剰余金	32,356	25,636
その他有価証券評価差額金	1,026	737
為替換算調整勘定	△2,670	△3,842
自己株式	△850	△4,804
<b>資本合計</b>	<b>54,647</b>	<b>40,464</b>
<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>93,598</b>	<b>81,150</b>

## Point 2

### 少数株主持分及び資本の部

新株予約権付社債の転換が99%まで進み、期末の社債残高は50百万円となりました。転換のための株式には自己株式を充てたため、資本の部の自己株式が減少するとともに資本剰余金が増加しました。その結果、株主資本比率は前期末に比べて8.5ポイント増加し、58.4%となりました。資本の部が厚くなり、経営の安定度はさらに増加しました。

## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	2004年12月1日から 2005年11月30日まで	2003年12月1日から 2004年11月30日まで
売上高	78,130	65,975
売上原価	47,783	40,807
売上総利益	30,346	25,168
販売費及び一般管理費	16,220	14,139
<b>営業利益</b>	<b>14,125</b>	<b>11,029</b>
<b>営業外収益</b>	<b>815</b>	<b>530</b>
受取利息	78	52
受取配当金	28	30
為替差益	176	-
持分法による投資利益	151	138
その他	380	308
<b>営業外費用</b>	<b>1,054</b>	<b>1,031</b>
支払利息	205	200
売上割引	656	576
その他	192	254
<b>経常利益</b>	<b>13,887</b>	<b>10,529</b>
<b>特別利益</b>	<b>748</b>	<b>55</b>
投資有価証券売却益	603	5
その他	145	49
<b>特別損失</b>	<b>159</b>	<b>272</b>
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>14,476</b>	<b>10,312</b>
<b>法人税、住民税及び事業税</b>	<b>5,507</b>	<b>4,474</b>
<b>法人税等調整額</b>	<b>△625</b>	<b>△404</b>
<b>少数株主利益</b>	<b>836</b>	<b>594</b>
<b>当期純利益</b>	<b>8,758</b>	<b>5,647</b>

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	2004年12月1日から 2005年11月30日まで	2003年12月1日から 2004年11月30日まで
税金等調整前当期純利益	14,476	10,312
減価償却費	5,182	4,445
投資有価証券の売却益	△603	△5
売上債権の増減額	△1,719	△1,727
たな卸資産の増減額	△3,977	△365
仕入債務の増減額	283	1,013
その他	△244	709
法人税等の支払額	△5,577	△2,797
<b>営業活動キャッシュ・フロー</b>	<b>7,820</b>	<b>11,585</b>
設備投資	△7,850	△6,183
子会社株式の取得	△171	△1,028
その他	821	△285
<b>投資活動キャッシュ・フロー</b>	<b>△7,200</b>	<b>△7,496</b>
有利子負債の増減	1,759	542
配当の支払額	△1,889	△1,274
自己株式の取得	△611	△2,018
その他	△155	△120
<b>財務活動キャッシュ・フロー</b>	<b>△897</b>	<b>△2,870</b>
<b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>239</b>	<b>114</b>
<b>現金及び現金同等物の増減額</b>	<b>△36</b>	<b>1,331</b>
<b>現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>6,112</b>	<b>4,638</b>
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	141
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>6,075</b>	<b>6,112</b>

## Point 3

### 連結損益計算書

売上高は78,130百万円と前期に比べ18.4%の増収となりました。利益面では原材料価格の上昇などのコストアップ要因がありましたが、好調な自動車産業からの旺盛な需要や、海外での市場開拓が進み、増収効果などの要因により営業利益は前期に比べ28.1%増の14,125百万円、経常利益は31.9%増の13,887百万円となりました。また、投資有価証券売却益603百万円を特別利益に計上したことから、当期純利益は前期に比べ55.1%増の8,758百万円となりました。

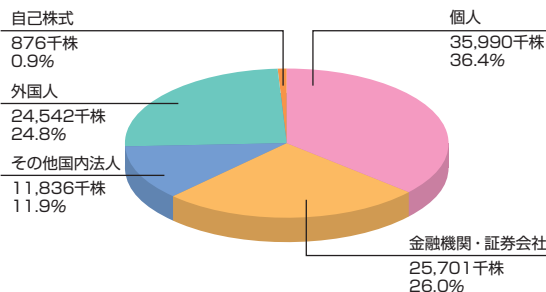
# 会社概況

# 株式の状況 (2005年11月30日現在)

商号	オーエスジー株式会社
英文商号	OSG CORPORATION
本社	愛知県豊川市本野ヶ原3-22
設立	昭和13年3月26日
資本金	104億4百万円
代表者	代表取締役社長 大沢輝秀
従業員数	連結 4,285名 単独 1,577名
事業内容	切削工具・転造工具・測定工具・工作機械・ 機械部品の製造販売、工具の輸入販売

役員 (2006年2月18日)	代表取締役社長	大沢 輝秀
	専務取締役	大沢 茂樹
	常務取締役	小林 督史
	常務取締役	小林 一仁
	常務取締役	山崎 憲雄
	常務取締役	大沢 吾平
	取締役	石川 則男
	取締役	櫻井 正俊
	取締役	園部 幸司
	常勤監査役	加藤 晃司
	監査役	松下 滋
	監査役	大森 宏幸
	監査役	小野 喬四朗
	執行役員	大沢 勇四郎
	執行役員	デイン ウィンタース
	執行役員	小野 克比古
	執行役員	鄭 台一
執行役員	吉崎 壽高	
執行役員	遠藤 徹	
執行役員	松元 健二	
執行役員	大沢 伸朗	

## 所有者別状況



発行する株式の総数 194,050,000株

発行済株式総数 98,955,226株

株主数 8,577名

## 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社 (信託口)	6,293	6.4
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	5,940	6.0
オーエスジー持株会	2,470	2.5
オーエスジーエーエージェント会	2,272	2.3
トヨタ自動車株式会社	2,100	2.1
バンク オブ ニューヨーク ヨーロッパ リミテッド ルクセンブルグ	1,966	2.0
財団法人大澤科学技術振興財団	1,521	1.5
オーエスジー社員持株会	1,414	1.4
三井住友海上火災保険株式会社	1,404	1.4
株式会社十六銀行	1,200	1.2

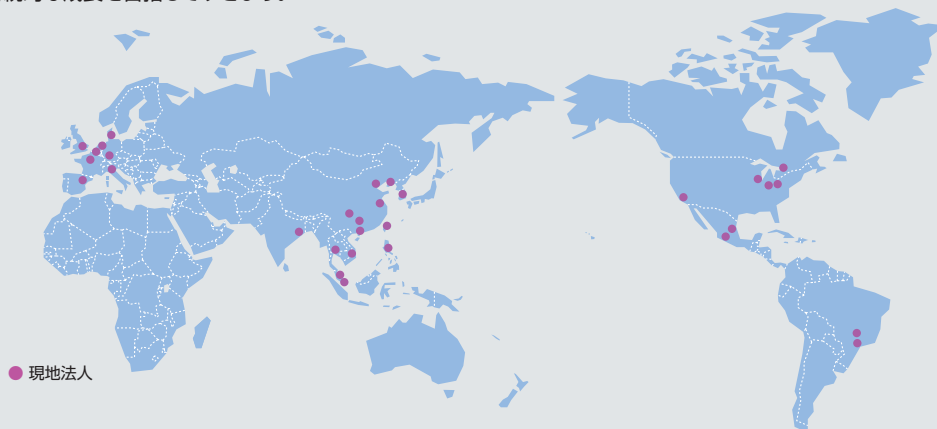
# 海外ネットワーク

## 地球規模で広がるツールコミュニケーション

当社の主要顧客は自動車産業、金型産業等です。国内の自動車・金型メーカーだけでは需要に限りがあり、持続的な成長をしてゆくためには、潜在需要が大きい海外市場を対象にし、現地ニーズにあった製品の開発・販売を進めるべきとの考えにたち、1968年に、米国・シカゴにOTD社を設立し、以来、海外展開を積極的に進めてきました。

最適地生産と地球規模でのツールコミュニケーションの展開を図るとともに、各国の産業に貢献しております。

オーエスジーは今後も、それぞれの地域や国の多様性や自立性を尊重しながら、オーエスジーというブランドと企業文化を大切にして持続的な成長を目指してゆきます。



OSG UK (英国)



奥ス机(上海)精密工具(中国)



大宝精密工具(台湾)



韓国OSG(韓国)



OSG Canada(カナダ)



OSG ITALIA(イタリア)



OSG Scandinavia(デンマーク)



大宝(东莞)模具切削工具(中国)



OSG Thailand(タイ)



OSG Royco(メキシコ)



OSG Tooling Iberica(スペイン)



OSG GmbH(ドイツ)



Carbide Cutting Tool(インド)



Sterling Die(U.S.A.)



OSG Ferramentas(ブラジル)

## 株主メモ

決算日	11月30日
定時株主総会	2月
株主確定基準日	(1)定時株主総会、利益配当金 11月30日 (2)中間配当金 5月31日 (3)その他必要があるときに、あらかじめ公告した一定の日
名義書換代理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 中央三井信託銀行株式会社名古屋支店 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社本店及び全国各支店 日本証券代行株式会社本店及び全国各支店
公告方法	電子公告によります。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は日本経済新聞に記載いたします。 <b><a href="http://www.osg-ir.com/kessan/index.html">http://www.osg-ir.com/kessan/index.html</a></b>
上場証券取引所	東京・名古屋両証券取引所
1単元の株式の数	100株

### (お知らせ)

#### 1. 配当金のお受取りについて

今回の配当金から、これまでの銀行口座に加え、郵便貯金口座(通常貯金口座)でも口座振込によるお受取ができるようになります。ご希望の株主様は、上記名義書換代理人までお問い合わせください。

#### 2. 各種手続に必要な用紙の請求について

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。



<http://www.osg.co.jp>

本社 〒442-8543 愛知県豊川市本野ヶ原3-22 TEL.0533-82-1111 FAX.0533-82-1131

